

## 重点改革項目Ⅲ 持続可能な財政運営の確立

取組項目(中項目)	1 財政予測計画をふまえた持続可能な財政運営		No.	40			
具体的な取組項目(小項目)	1 中長期的な収支均衡、事務事業の選択と集中による計画的な歳出の見直し		担当課	財務課● 政策調整課			
改革実施項目名称(細項目)	財政予測計画を踏まえ、臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスや市債の減少目標に配慮した財政運営						
現状と課題 (これまでの取組み)	人口減少、人口構成の変化から将来の財源確保が不透明である一方、高齢化の進行などにより社会保障費の増加が予測されている。厳しい財政状況が見込まれる中においても、将来世代に過度な負担を強いることのないようプライマリーバランス及び市債残高に配慮しながら持続可能な財政運営を行っていくため、今後8年間の財政予測計画を明示した。						
事業の目標・目的 (考えられる効果)	≪計画期間の目標≫ 財政予測計画を踏まえ、 ・臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスについて、平成28年度から収支均衡を図る。 ・臨時財政対策債を除いた市債残高について、平成28年度から毎年度、対前年度より減少させる。 ≪事業の最終目標≫ 財政予測計画を踏まえ、 ・臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスについて、平成28年度から収支均衡を図る。 ・臨時財政対策債を除いた市債残高について、平成28年度から減少させ、平成34年度までに3,800億円以下に縮減する。						
取組の内容	投資的経費の厳正な事業選択や、より一層の事業見直し等による歳出抑制を徹底するとともに、地域経済活性化に資する施策を充実させ、税源の涵養を図りながら歳入確保に努め、持続可能な財政運営を行っていく。						
改革実施概要	取組工程 (具体的な内容)	現状 (平成26年度)	平成27年度		平成28年度		中間目標/ 29年度以降
			計画	実績	計画	実績	
		・今後8年間の財政予測計画を明示 ・臨時財政対策債を除いたプライマリーバランス(以下「PB」)を保つ年次を明示 ・臨時財政対策債を除いた市債残高の減少目標を明示	・財政予測計画を踏まえた持続可能な財政運営を行う	・財政予測計画を踏まえ、PB及び市債残高を意識した持続可能な財政運営を行った。	・財政予測計画を踏まえた持続可能な財政運営を行う	・財政予測計画を踏まえ、PB及び市債残高を意識した持続可能な財政運営を行った。	・引き続き、財政予測計画を踏まえた持続可能な財政運営を行う
指標	プライマリーバランス	△110億円	△64億円	△36億円	黒字化	黒字化	黒字化
	市債残高	3,845億円	3,909億円	3,899億円	対前年度より減少	対前年度より減少	対前年度より減少

進捗管理	(各年度10月に実施)		平成27年度		平成28年度		※平成29年度上半期に計画期間の中間評価を実施する。
	取組の状況	上半期 (4～9月)	・財政予測計画を踏まえた財政運営を実施	予定通り 進捗	・財政予測計画を踏まえた財政運営を実施	予定通り 進捗	

年度評価	(年度終了後に実施)		平成27年度		平成28年度	
	取組工程、指標に対する評価		・財政予測計画を踏まえ、PB及び市債残高を意識した持続可能な財政運営を行った。	B	・財政予測計画を踏まえ、PB及び市債残高を意識した持続可能な財政運営を行った。	B
	課題、今後の方針、改善事項など		・引き続き、投資的経費の厳正な事業選択などを進めるほか、予算執行においても効果的・効率的な事業実施を図る。		・引き続き、投資的経費の厳正な事業選択などを進めるほか、予算執行においても効果的・効率的な事業実施を図る。	

計画期間の中間評価	(平成29年度に実施)		中間評価		平成29年度以降
	取組工程、指標に対する評価 (指標の適正性等)		・財政予測計画を踏まえ、PB及び市債残高を意識した持続可能な財政運営を行った。	B	・引き続き、財政目標の達成に向けて、投資的経費の厳正な事業選択や行財政改革に取り組み、持続可能な財政運営を行う。
	課題、今後の方針、改善事項など		・本市の財政目標では、市債残高を平成34年度までに3,800億円以下に縮減することとしているが、平成29年度当初予算時点における財政予測計画では3,826億円となっている。今後は投資的経費の厳正な事業選択や行財政改革に取り組むことで市債残高の縮減を図る。		

## 重点改革項目Ⅲ 持続可能な財政運営の確立

取組項目(中項目)	1 財政予測計画をふまえた持続可能な財政運営		No.	40			
具体的な取組項目(小項目)	1 中長期的な収支均衡、事務事業の選択と集中による計画的な歳出の見直し		担当課	財務課● 政策調整課			
改革実施項目名称(細項目)	財政予測計画を踏まえ、臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスや市債の減少目標に配慮した財政運営						
現状と課題 (これまでの取組み)	人口減少、人口構成の変化から将来の財源確保が不透明である一方、高齢化の進行などにより社会保障費の増加が予測されている。厳しい財政状況が見込まれる中においても、将来世代に過度な負担を強いることのないようプライマリーバランス及び市債残高に配慮しながら持続可能な財政運営を行ってため、今後8年間の財政予測計画を明示した。						
事業の目標・目的 (考えられる効果)	≪計画期間の目標≫ 財政予測計画を踏まえ、 ・臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスについて、平成28年度から収支均衡を図る。 ・臨時財政対策債を除いた市債残高について、平成28年度から毎年度、対前年度より減少させる。 ≪事業の最終目標≫ 財政予測計画を踏まえ、 ・臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスについて、平成28年度から収支均衡を図る。 ・臨時財政対策債を除いた市債残高について、平成28年度から減少させ、平成34年度までに3,800億円以下に縮減する。						
改革実施概要	取組工程 (具体的な内容)	現状 (平成26年度)	平成29年度		平成30年度		最終目標/ 31年度以降
			計画	実績	計画	実績	
		・今後8年間の財政予測計画を明示 ・臨時財政対策債を除いたプライマリーバランスを保持年次を明示 ・臨時財政対策債を除いた市債残高の減少目標を明示	・財政予測計画を踏まえた持続可能な財政運営を行う	・財政予測計画を踏まえ、PB及び市債残高を意識した持続可能な財政運営を行った。 ・また、基金については、政令指定都市移行後はじめて、積立に転換する予算編成を実施した。	・財政予測計画を踏まえた持続可能な財政運営を行う	・財政予測計画を踏まえ、PB及び市債残高を意識した持続可能な財政運営を行った。	・引き続き、財政予測計画を踏まえた持続可能な財政運営を行い、平成34年度までに3,800億円以下に縮減
指標	プライマリーバランス	△110億円	黒字化	赤字	黒字化	黒字化	黒字化
	市債残高	3,845億円	対前年度より減少	対前年度より増加	対前年度より減少	対前年度より減少	3,800億円以下

進捗管理	(各年度10月に実施)		平成29年度		平成30年度	
	取組の状況	上半期 (4～9月)	・財政予測計画を踏まえた財政運営を実施 予定通り進捗	・財政予測計画を踏まえた財政運営を実施 予定通り進捗		

年度評価	(年度終了後に実施)		平成29年度		平成30年度	
	取組工程、指標に対する評価		・H30年度当初予算編成などを通じて持続可能な財政運営を行った。 ・一方で、H29年度決算ベースによる指標では、過去最大となる除排雪経費や、国の経済対策補正による事業等に機動的に対応した結果、PBが赤字となり市債残高は増加した。 C	・R元年度当初予算編成などを通じて持続可能な財政運営を行った。 ・なお、H30年度決算においては、基金については、政令指定都市移行後はじめてとなる当初予算に基づく積立を実施した。 B		
	課題、今後の方針、改善事項など		・引き続き、投資的経費の厳正な事業選択や、事務事業点検の実施により行財政改革を進めるほか、予算執行においても効果的・効率的な事業実施を図る。	・引き続き、投資的経費の厳正な事業選択や、事務事業点検の実施により行財政改革を進めるほか、予算執行においても効果的・効率的な事業実施を図る。		

計画期間の評価	計画期間の評価		平成31年度以降
	取組工程、指標に対する評価 (指標の適正性等)	・財政予測計画を踏まえ、プライマリーバランス及び市債残高を意識した持続可能な財政運営を行った。 ・また、基金については、平成30年度当初予算において、政令指定都市移行後はじめて積立に転換する編成を実施し、次年度も継続して積立を行う予算編成とすることができた。 B	・集中改革期間における行財政改革の取組を進める中で、引き続き、投資的経費の厳正な事業選択に取り組み、持続可能な財政運営を行っていく。
	課題、今後の方針、改善事項など	・財政予測計画では、市債残高を2022年度までに3,800億円以下に縮減することとしていたが、2019年度当初予算時点における見通しでは3,868億円となっている。 ・市債は、国の経済対策補正など機動的に対応する必要があるものであることを踏まえつつ、引き続き、投資的経費の厳正な事業選択や行財政改革に取り組むことで市債残高の縮減を図っていく。	